

西部第三土地区画整理記念館 解体工事に伴う近隣説明会

春日部市消防本部 総務課

1 開会

2 あいさつ

3 内容

(1) 西部第三土地区画整理記念館解体工事について

(2) 質疑応答（解体工事に関する事）

(3) 新分署の基本設計について

(4) 質疑応答（新分署に関する事）

4 閉会

(1) 西部第三土地区画整理記念館解体工事について

この工事は、春日部消防署浜川戸分署と幸松分署を統合するための移転先として、新たな分署の建設予定地となっている西部第三土地区画整理記念館を解体するものです。

敷地の現存建物や樹木、フェンスなどの外構を解体し、約2,867㎡を整地します。

※現存建物のうち、

シルバー人材センターの作業所は解体しません。

解体工事について

解体工事：株式会社 中野組

工事監理：有限会社 勝建築設計事務所

凡例 ■ 予定工程 ■ 実施工程

添付-1

工程表 (建築・電気・機械等)

請負代金額 金 110,000,000 円

工期 令和 7年 12月 17日から

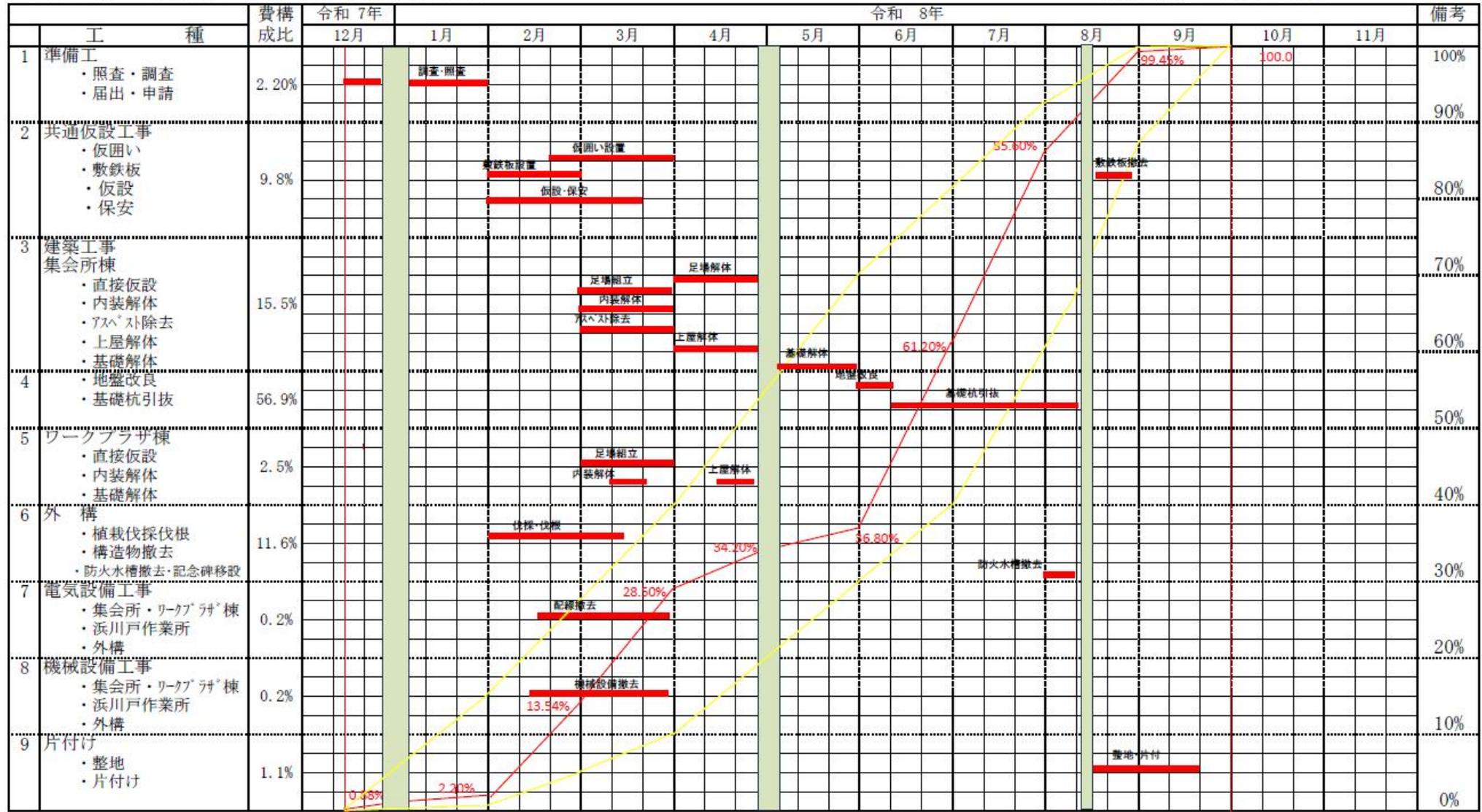
令和 8年 9月 30日まで

埼玉県春日部市谷原2-12-9

株式会社 中野組

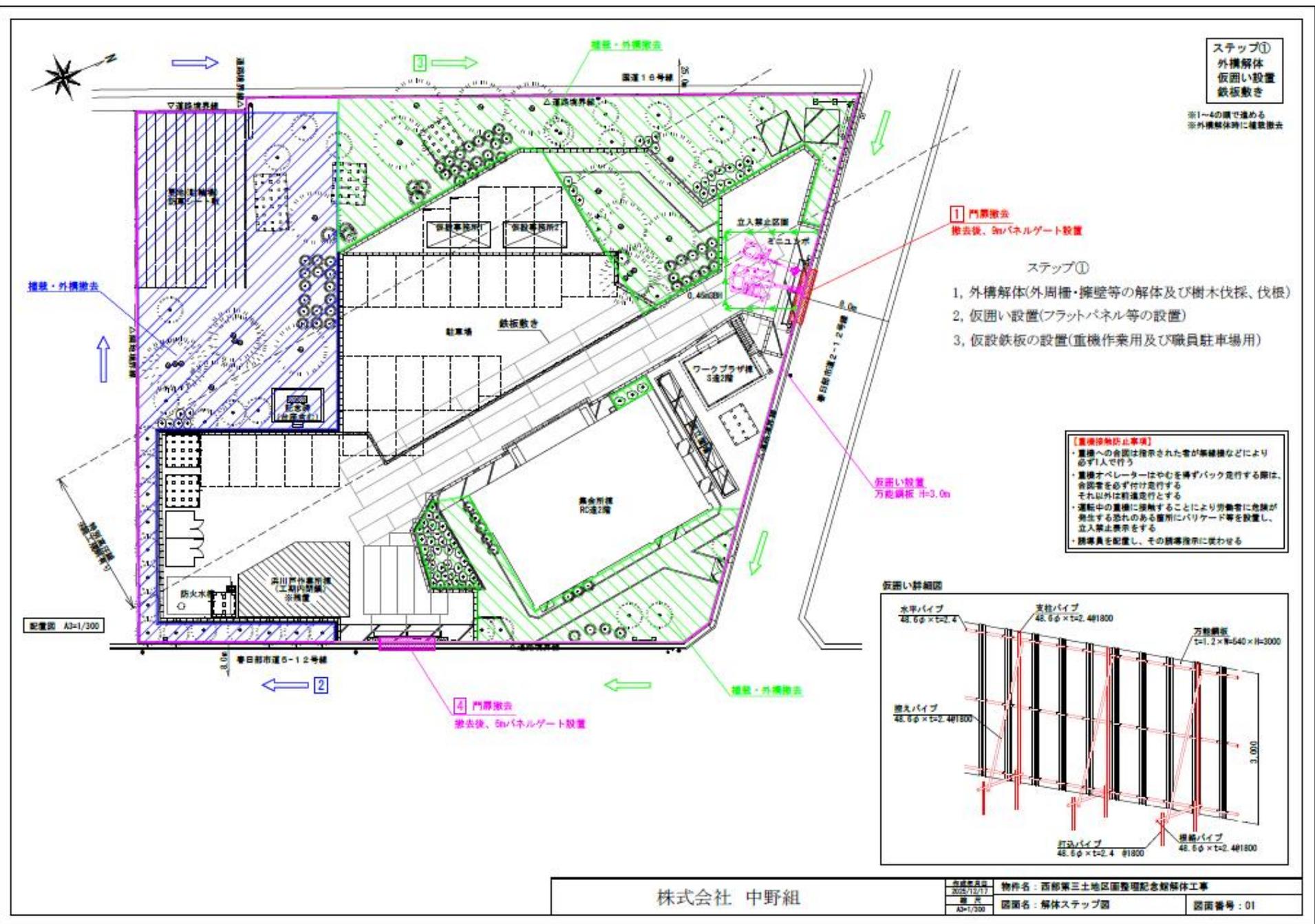
現場代理人 磯田 文雄

工事名 西部第三土地区画整理記念館解体工事



令和 7年 12月 17日

令和 8年 9月 30日



ステップ①
外構解体
仮囲い設置
鉄板敷き

※1~4の順で進める
※外構解体時に雑草除去

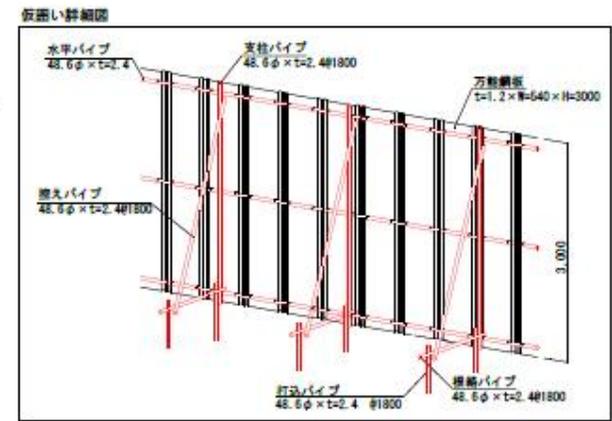
① 門扉撤去
撤去後、5mパネルゲート設置

ステップ①

1. 外構解体(外周柵・擁壁等の解体及び樹木伐採、伐根)
2. 仮囲い設置(フラットパネル等の設置)
3. 仮設鉄板の設置(重機作業用及び職員駐車場用)

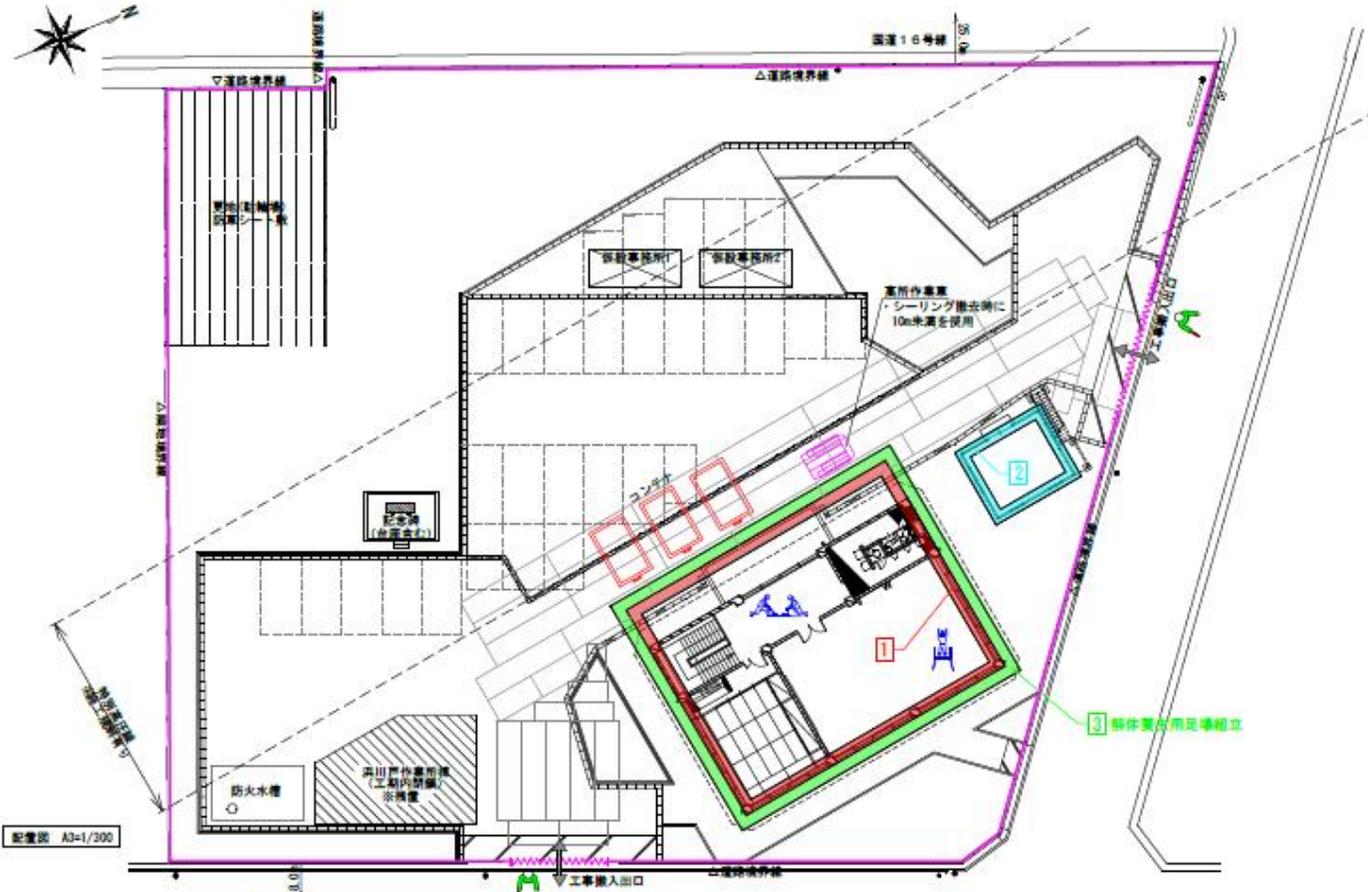
【重機移動防止事項】

- 重機への合図は指示された者が機械などにより必ず1人で行う
- 重機オペレーターはやむを得ずバック走行の際は、合図者を必ず付け走行する
それ以外は前進走行とする
- 運転中の重機に接触することにより労働者に危険が発生する恐れのある箇所にバリケード等を設置し、立入禁止表示をする
- 誘導員を配置し、その誘導指示に従わせる



株式会社 中野組

作成者 2025/12/17	物件名 西部第三土地区画整理記念館解体工事
図名 A3-1/300	図面名 解体ステップ図
	図面番号 01



ステップ②
内装解体
石綿除去

- ① 真鍮所様：内装解体・石綿除去
 - ② ワークプラザ様：内装解体
 - ③ 真鍮所様：足場組立後、シーリング撤去
- ※この字見場のない所は真鍮の使用

ステップ②

1. 内装解体(建物内の内装解体)
2. 石綿除去(石綿含有建材等の撤去)

【内装解体共通事項】

- ・上層より作業を行う
- ・人力にて内装解体する
- ・解体した内装材は人力にて直接コンテナに積み出し搬出する
- ・作業員は床、壁、天井と指差を分けて作業する
- ・基本的には各フロアを完了させてから下層に移る
- ・階ごとに段下前に集積する
- ・塵埃の品目ごとにコンテナに積み出し搬出する
- ・運搬中はつまずき防止のため、運搬経路の片づけを行い、投棄等に意を付ける
- ・また素材で手足をケガないように保護員の着用を徹底する

【立錐使用共通事項】

- ・立錐は平らな場所に設置し、手で揺らしてみても安定を確認する
- ・立錐への昇降は正面に向けて手掛かり棒を掴んで行う
- ・立錐上では無様な姿勢での作業は行わず、2人以上で作業しない
- ・最大積載荷重を確認し、超えないように注意する

【足場組立共通事項】

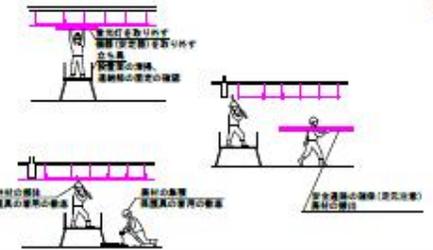
- ・男子候クランプは使用不可とする
- ・足場上の作業ではフルハーネス設置強制止用器具の使用を厳守する
- ・足場の作業においては作業間の連絡調整を行い、上下作業は行わない
- ・足場の上下移動は昇降設備を必ず使用する
- ・雪つなぎは2層2スパンに設置する
- ・飛散や騒音防止用の解体用養生足場のため、組立完了後は立ち入り禁止とする
- ・床材間の隙間は30cm以下とする
- ・床材と地盤の隙間は12cm未満とする
- ・足場組立後・使用前、強風・大雨・地震に際しては、使用前に足場の点検を実施する

配置図 A3-1/300

内装解体作業順序

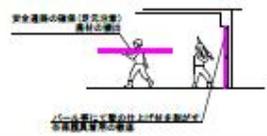
天井材の人力解体要領

- ① 撤去に先立ち、電気、設備類が切断されているか確認する。
 - ② 照明器具(蛍光灯・窓)を取り外す。
(照明器具の安定器の型番を測定して、PGBの有無を確認する。)
 - ③ 立ち高、脚立等を作業床にしてバール等にて天井仕上げ材(石膏ボード、ベニヤ板)を掻き落とす。
- ※作業床の設置時には、真材の伸縮継、接続部を確認して、床面を片付け、作業床を安定させてから作業を行う。
- ※作業床は天井高に応じた物を適宜し、高さ0.2.0mを超える物については、手摺を設け、安全帯を使用する。
- ④ 撤去は人力で実施して、ガラ袋等に詰め、搬出する。
- ※作業中は作業員は、保護マスク、保護メガネを着用して人的危害を防ぐ。
- ⑤ 仕上げ材を片付け後、下地材(石膏、木下地等)を人力にて解体する。
- ⑥ 撤去は転落して、人力にて搬出する。



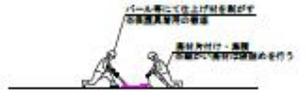
壁仕上げ材の人力解体要領

- ① バール等にて仕上げ材を剥がす。
- ② バール等にて下地材(石膏、木下地等)を撤去する。
- ③ 撤去は人力で実施して、ガラ袋等に詰め、搬出する。



床仕上げ材の人力解体要領

- ① バール等にて仕上げ材を剥がす。
 - 又は電動ハンマ(平ノミ)を使用する。
 - ② 撤去は人力で実施して、ガラ袋等に詰め、搬出する。
- ※作業中は作業員は、保護マスク、保護メガネを着用して人的危害を防ぐ。





ステップ③
足場組立(ワークプラザ棟)

■ 足場組立
※60日以内で組立・解体を行う

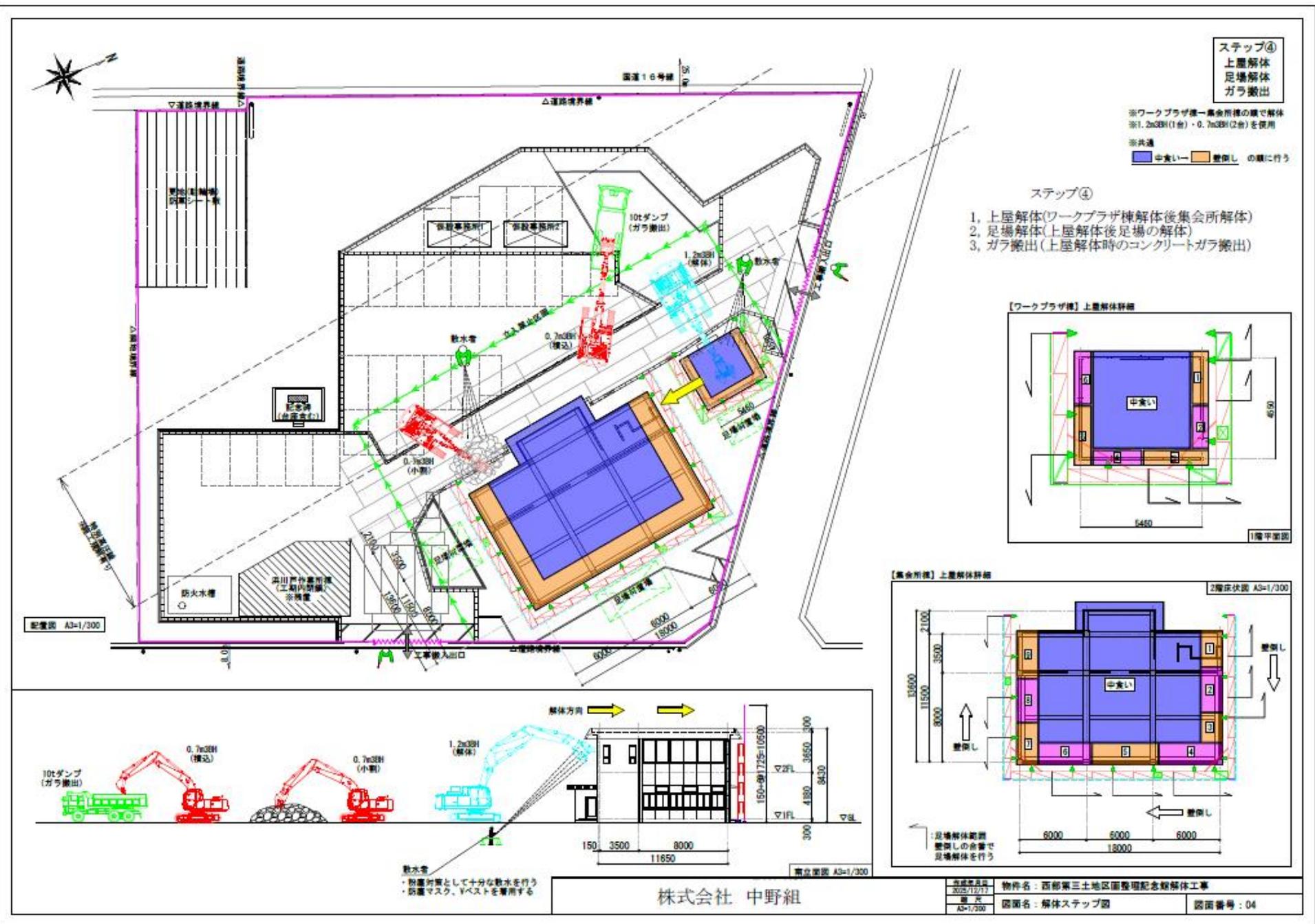
- 【足場組立共通事項】
- ・ 羽子板クランプは使用不可とする
 - ・ 足場上の作業ではフルハーネス型坠落制止用器具の使用を厳守する
 - ・ 足場の作業においては作業間の連絡調整を行い、上下作業は行わない
 - ・ 足場の上下移動は昇降設備を必ず使用する
 - ・ 壁などは2層2スパンに設置する
 - ・ 飛散や騒音防止用の解体用養生足場のため、組立完了後は立入禁止とする
 - ・ 床材間の隙間は30cm以下とする
 - ・ 床材と地地の隙間は120cm未満とする
 - ・ 足場組立後・使用前、強風・大雨・地震に際しては、使用前に足場の点検を実施する

ステップ③
1, 足場組立工(ワークプラザ棟)

解体完了用足場組立
※足場組立の際に外部階段を撤去する

株式会社 中野組

作成者 2025/10/17	物件名: 西部第三土地区画整理記念館解体工事
図面 A3-1/300	図面名: 解体ステップ図
	図面番号: 03

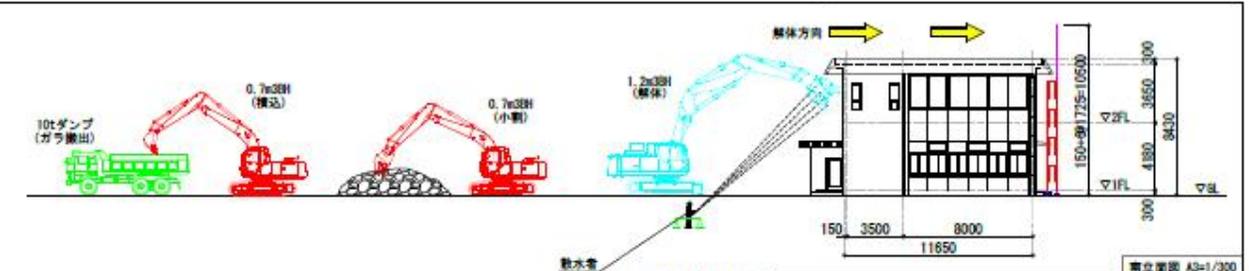
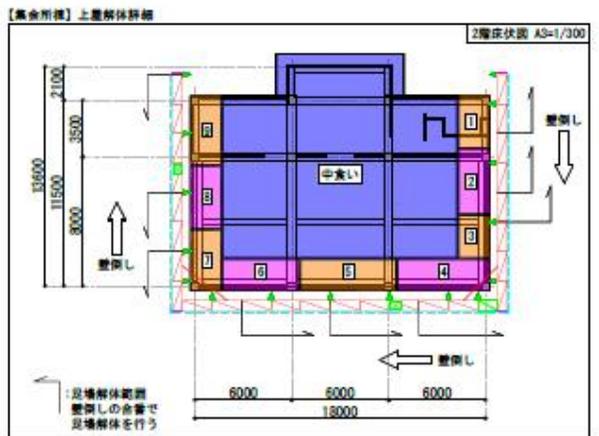
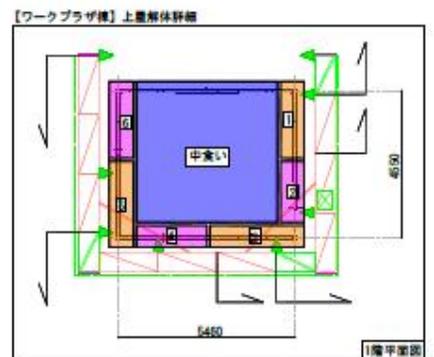


ステップ④
上屋解体
足場解体
ガラ搬出

※ワークプラザ棟一集会所棟の順で解体
※1.2m3BH(1台)・0.7m3BH(2台)を使用
※共通
■中食い ■壁削し の順に行う

ステップ④

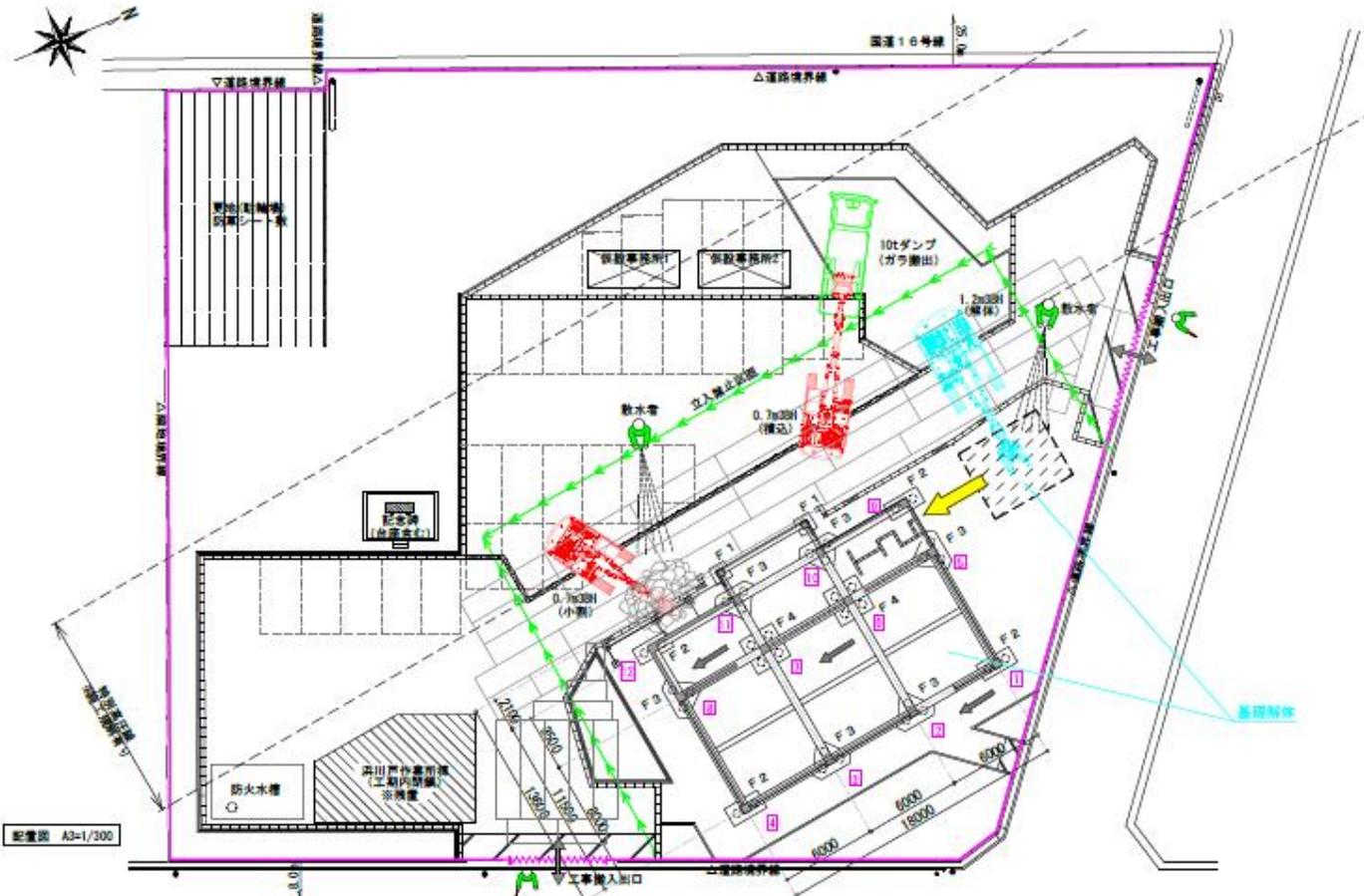
- 1, 上屋解体(ワークプラザ棟解体後集会所解体)
- 2, 足場解体(上屋解体後足場の解体)
- 3, ガラ搬出(上屋解体時のコンクリートガラ搬出)



敷水車
・防塵対策として十分な敷水を行う
・防塵マスク、ベストを着用する

株式会社 中野組

図面番号 302/10/17	物件名 西都第三土地区画整理記念館解体工事
層別 A3=1/300	図面名 解体ステップ図
	図面番号 04

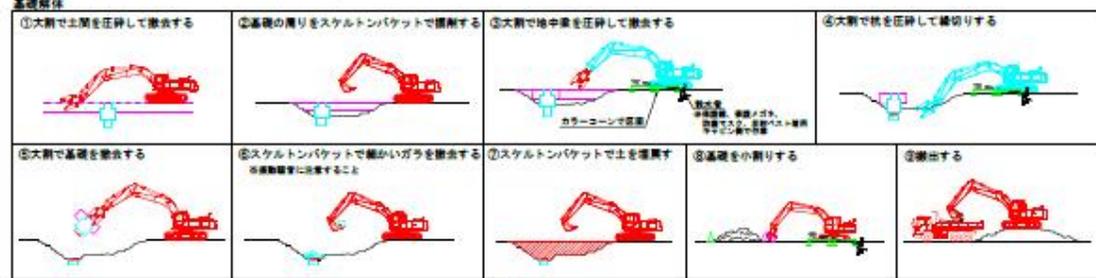
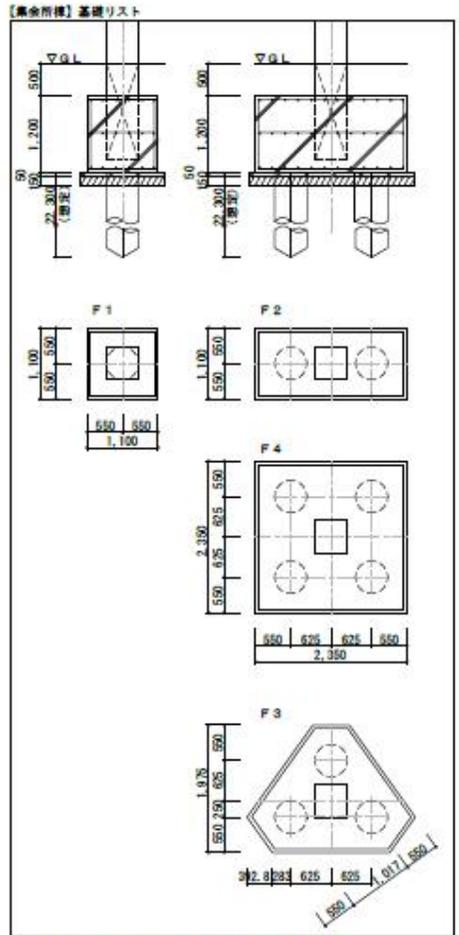


ステップ⑤
基礎解体

※ワークプラザ棟一集会所棟の順で解体
※1.2m3B(1台)・0.7m3B(2台)を使用

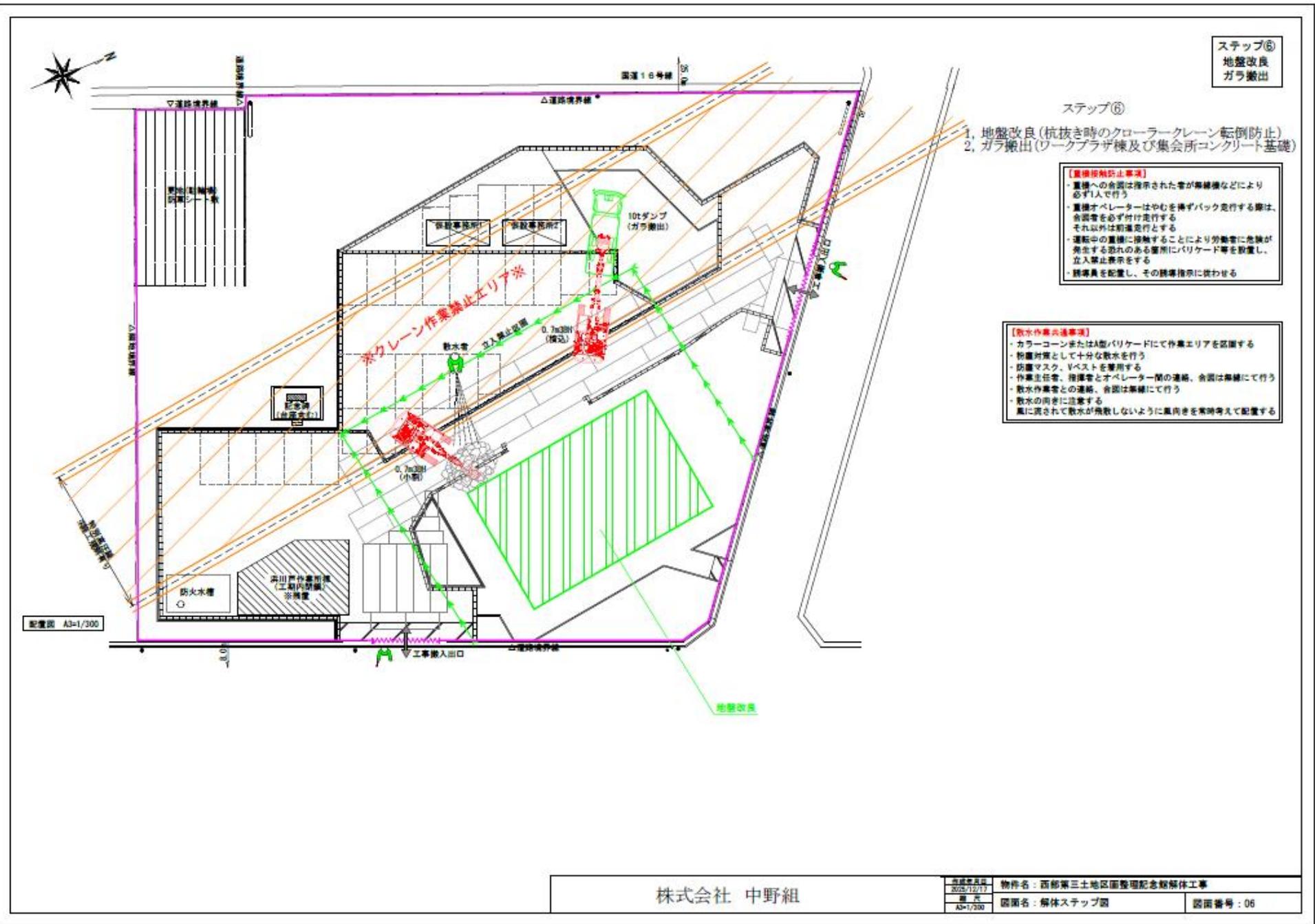
ステップ⑤

基礎解体(ワークプラザ棟及び集会所基礎解体)



株式会社 中野組

図面番号 505-102-17	物件名 : 西部第三土地区画整理記念解体工事
縮尺 A3=1/300	図面名 : 解体ステップ図
	図面番号 : 05



ステップ⑥
地盤改良
ガラ搬出

ステップ⑥

1. 地盤改良 (杭抜き時のクローラークレーン転倒防止)
2. ガラ搬出 (ワークプラザ棟及び集会所コンクリート基礎)

【重機接触防止事項】

- ・重機への合図は指示された者が専任者などにより必ず1人で行う
- ・重機オペレーターはやむを得ずバック走行する際は、合図者を必ず付け走行する
それ以外は前進走行とする
- ・運転中の重機に接触することにより労働者に危険が発生する恐れのある箇所にはバリケード等を設置し、立入禁止表示をする
- ・専任者を配置し、その専任指示に従わせる

【散水作業共通事項】

- ・カラーコーンまたはA型バリケードにて作業エリアを区画する
- ・作業対象として十分な散水を行う
- ・防護マスク、Vベストを着用する
- ・作業主任者、指揮者とオペレーター間の連絡、合図は専任にて行う
- ・散水作業者との連絡、合図は専任にて行う
- ・散水の向きに注意する
- ・風に吹かれて散水が飛散しないように風向きを常時考え、調整する

配置図 A3-1/300

株式会社 中野組

作成者 2025/12/17	物件名: 西部第三土地区画整理記念館解体工事
図面 A3-1/300	図面名: 解体ステップ図
	図面番号: 06



ステップ⑦
杭抜き

ステップ⑦

1, 杭抜き工(集会所基礎杭撤去)

杭抜き

<p>①重機の設置 ケーシングの刃先を引抜杭頭部にセットする</p>	<p>②削孔 刃先より水を噴出させケーシングを回転させながら削孔する</p>
<p>③ケーシング引上げ 引抜杭のフレクション除去を確保したのち、ケーシングを洗浄しながら引き上げる</p>	<p>④ワイヤー取付 ケーシング先端に輪投げワイヤーを装着し、杭先端に合わせる</p>
<p>⑤玉掛け 杭頭部にワイヤーを締付け、玉掛けをする</p>	<p>⑥杭引抜き 杭が長い場合には大割にて切断する</p>
<p>⑦杭引戻し 引き抜いた杭をゆっくり引き戻せる ※回転範囲の人払いを徹底する</p>	<p>⑧埋戻し バックホウにて埋戻し、完了とする</p>

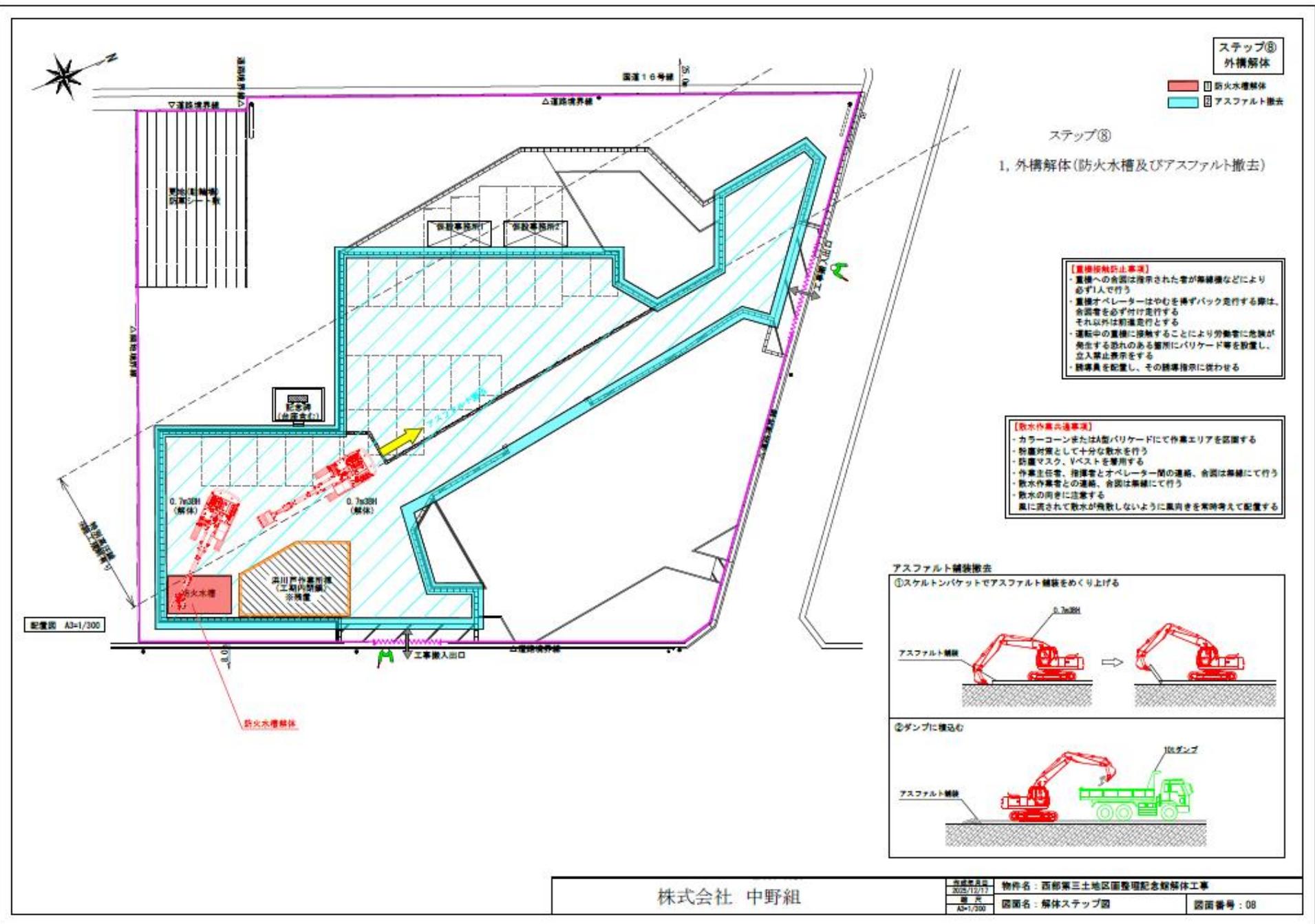
【重機稼働防止事項】

- 重機への合図は指示された者が無線機などにより必ず1人で行う
- 重機オペレーターはやむを得ずバック走行する際は、合図者必ず付け走行する
それ以外は前進走行とする
- 運転中の重機に接触することにより労働者に危険が発生する恐れのある箇所にはバリケード等を設置し、立入禁止表示をする
- 誘導員を配置し、その誘導指示に従わせる

【散水作業共通事項】

- カラーコーンまたはA型バリケードにて作業エリアを区画する
- 粉塵対策として十分な散水を行う
- 防護マスク、Vベストを着用する
- 作業主任者、指揮者とオペレーター間の連絡、合図は無線機にて行う
- 散水作業等との連絡、合図は無線機にて行う
- 散水の向きに注意する
- 風に流されて散水が飛散しないように風向きを常時考慮して配置する

配置図 A3-1/300



ステップ⑧
外構解体

- 防火水槽解体
- アスファルト撤去

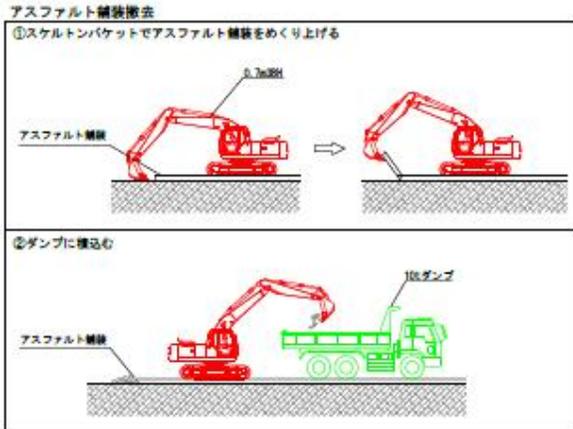
ステップ⑧
1. 外構解体(防火水槽及びアスファルト撤去)

【重機接触防止事項】

- 重機への合図は指示された者が無縁機などにより必ず1人で行う
- 重機オペレーターはやむを得ずバック走行する際は、合図者を必ず付け走行する
それ以外は前進走行とする
- 運転中の重機に接触することにより労働者に危険が発生する恐れのある箇所にバリケード等を設置し、立入禁止表示をする
- 誘導員を配置し、その誘導指示に従わせる

【散水作業共通事項】

- カラーコーンまたはA型バリケードにて作業エリアを区画する
- 防塵対策として十分な散水を行う
- 防護マスク、Vベストを着用する
- 作業主任者、指揮者とオペレーター間の連絡、合図は無縁にて行う
- 散水作業者との連絡、合図は無縁にて行う
- 散水の向きに注意する
- 風に流されて散水が飛散しないように風向きを常時確認して配置する



株式会社 中野組

図面番号 3025/10/17	物件名 西都第三土地区画整理記念館解体工事
縮尺 A3-1/300	図面名 解体ステップ図
	図面番号 08

POWER & CONTROL

そのパワーと性能を自由自在に。

もっと意のままに、力強く、素早く。過酷な環境下でもタフな性能を。優れた操作性を備え、かつシンプルであれ。現場の求める「リアル」なニーズに、どこまで近づけるか。日立らしい「操作性」を求め、数々の挑戦を積み重ねた新型ZAXIS-sがここに誕生。新しい排出ガス規制にも対応し、これからの時代をリードする日立建機の次世代油圧ショベルです。



※写真はオプションの3.01mロングアーム。アタッチメント基本仕様。アシスト駆動を省略します。



特定待排白熱率
排出ガス2014年基準
適合率



国土交通省
超低燃費型油圧ショベル
適合率



2020年燃費基準
100%達成建設機種
(ZAXIS350S44以降)



NETIS登録
国土交通省指定の環境性能評価機関
H2014年排出ガス2014年基準適合率
H2020年燃費基準100%達成建設機種
登録番号: 45-119902 | 登録機種: ZAXIS350S44

日立建機が考える環境への配慮 _P4-5

環境規制に日立建機の技術が貢献。
「尿素SCRシステム」と省エネ機構

さらに感覚に近づいた操作性 _P6

操作性とパフォーマンスの両立。
「操作性の日立」の優れた油圧システム

テクノロジーでオペレータをサポート _P7

周囲映像とステーションリモードでオペレータをサポート。
「Aerial Angle®」の優れた映像機構

快適な運転空間 _P8-9

必要な情報がすぐにわかり、長時間操作でも疲れにくい運転空間。
オペレータが作業しやすい、快適な運転空間

効率的なメンテナンス _P10-11

整備時間を短く、安全に、しっかりと。
機能維持・長寿命化に直結する便利なメンテナンス機構

確かな信頼と耐久性 _P12-13

種別機種の独自調査により長期間稼働に耐えうる耐久性を確立。
燃料回路を大幅に強化し、エンジンの長寿命化を実現

ConSite _P14-15

新車保証・メンテナンスプログラムや遠隔サポートを通じ、
お客様の毎日のビジネスをサポート。
日立建機のサポートプログラム

より機能的に、より安全に 親切なオペレータサポート機能を搭載。



Aerial Angle® (エアリアルアングル) _P7

周囲映像をモニターで確認

ステーションリモード _P7

検知エリアに侵入し、かつ、移動中の人や物を
モニターによりオペレータに注意喚起

LED周囲照明 オプション _P7

LEDライトを車体の左右、後方に設置

操作レバー自動ロック _P9

ロックレバー解除時の誤操作による
機械の動きを抑止する機能

シートベルトリマインダ _P9

シートベルト未装着をオペレータに警告

USB充電ポート _P9

キャブ内にUSB充電ポートを設置

LED作業灯 _P10

ブーム、車体右前の作業灯をLEDに

マルチブーム解体仕様機



ZAXIS350LCK

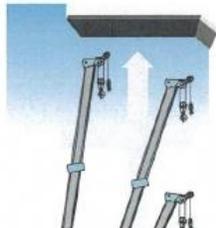
■ 型式	ZX350LCK-6	
■ エンジン定格出力	202 kW (275 PS)	
■ フロント	ハイリフト仕様	ツーピースブーム仕様
■ 作業高さ(アーム先端ピン)	23 m	13.5 m
■ 運転質量(アタッチメント付き)	46,300 kg	46,900 kg
■ アタッチメント装着可能質量	2,600 kg	4,000 kg

ハイリフトフロント仕様機は、傾斜地やの上での作業は禁止されています。作業は水平堅土上で行ってください。また、いずれのフロントにおいても、機種の作業範囲や残存した建物の状況などにより、作業員に危険が生じるおそれのある範囲の範囲には、運転員以外の作業員が立ち入らないように柵やカラーコーンなどの設置が必要です。

High safety performance [安全性]

オペレータに安心を与える安全性

接触などを未然に防ぐ作業範囲制限装置



ブーム角度(上仰/下仰)、ブームトップ高さ、作業半径をあらかじめ設定することで、ブームの作動範囲を制限できます。設定位置に近づくと警報音が知らせ自動停止。ホイールクレーンで実機豊富な低傾高い機能です。接触を防止するだけでなく、繰り返し作業の効率アップにも役立ちます。

誤作動を防ぐエンジン始動時安全機能

操作レバーが入った状態でエンジンを掛けてしまっても、マシンが動かないインターロック機能を搭載。レバーを一度中立に戻して初めて操作が可能になります。

フリーフォールの誤作動を防止 安心な3ステップのインターロック機構

フリーフォール禁止キーを解除、ブレーキペダルを踏んだ状態でフリーフォールスイッチを操作する事ではじめてフリーフォール操作可能なインターロックを掲載。

※操作ミスなどによるつり荷の落下を防ぐため、クレーン作業では自由落下(フリーフォール)作業は行わないでください。

クローラ張出確認スイッチを標準装備

クローラ短小時のブームや旋回操作による転倒を防止、過負荷防止装置に警報表示されないクローラ格納モードの状態から、張出確認スイッチを1秒以上タッチすると、クローラ張出モードに変わり、再確認を音声で促します。

万一のマシントラブルを早期発見

クレーンの全ての情報を表示するメインモニタには、燃料・作動油・冷却水などに関する16項目の異常表示機能と、電子制御部品のトラブルを全41項目にわたり自己診断表示する機能を装備しています。

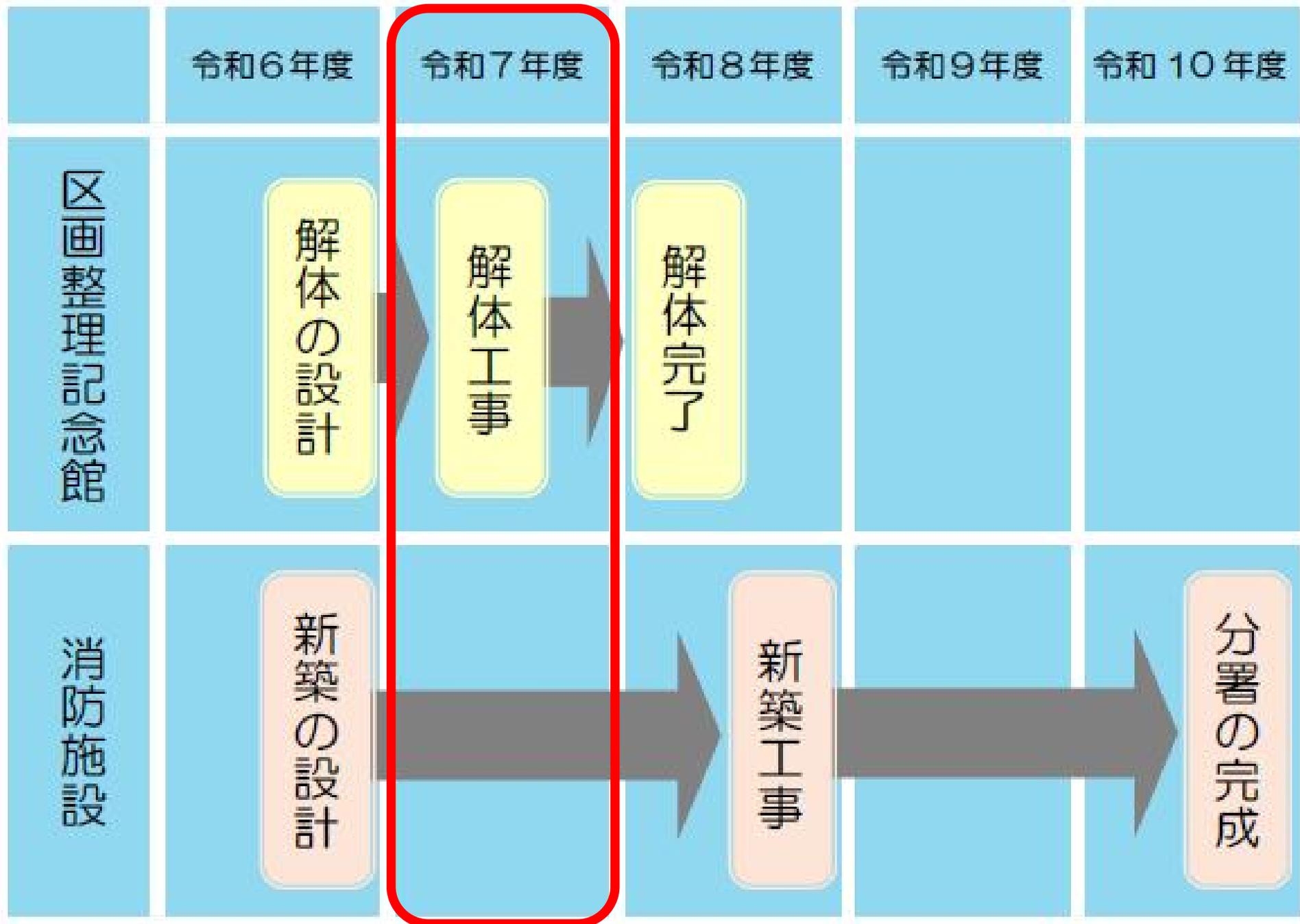
ドラムや周囲の状況をすばやく確認できる 各種カメラ(オプション)

ドラムの巻取状況や動き始めを確認する巻上ドラムカメラ、周辺の後方など周囲を確認できる各種カメラをオプション設定しています。運転室内のカメラ用モニタ画面ですばやく確認することが可能です。



(3) 新分署の基本設計について

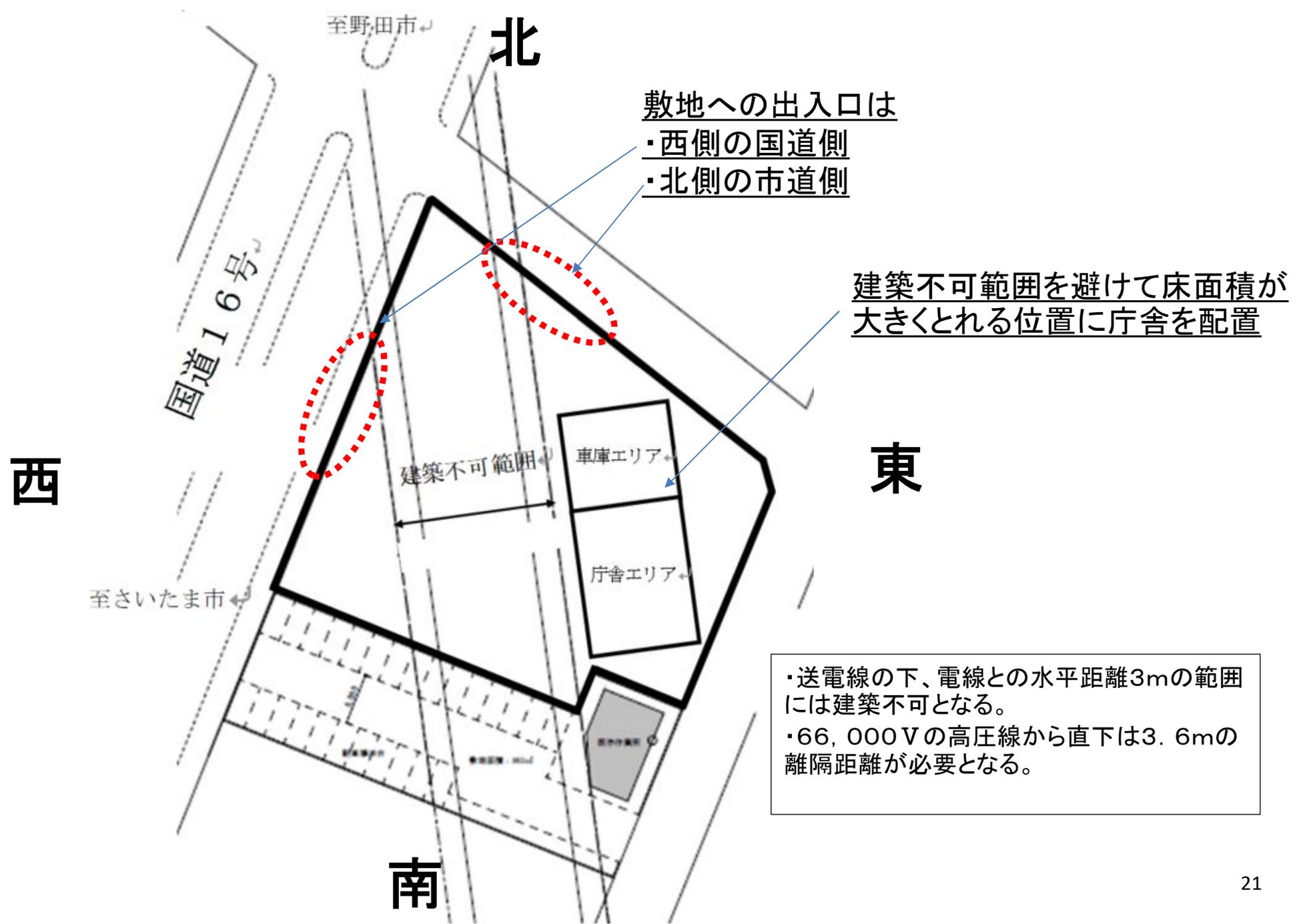
令和7年3月に新築工事設計業務委託を契約しました。令和10年度新分署完成を目指し、庁舎の規模、庁舎の配置、外構や出入口などを検討することとあわせ、機能性や経済性、近隣の生活環境に配慮することなどを追求しながら新分署建設に向け、現在、設計を進めています。



庁舎規模と配置人員・車両について

- ①構造 RC造2階建
- ②面積 約650m²
- ③人員 最大23人（毎日勤務1人・交代制勤務22人）
- ④車両 最大4台
 - ・化学消防ポンプ自動車 1台
 - ・消防ポンプ自動車 1台
 - ・救急自動車 1台
 - ・査察車 1台

庁舎配置(例)



敷地への出入口は
・西側の国道側
・北側の市道側

建築不可範囲を避けて床面積が
大きくとれる位置に庁舎を配置

・送電線の下、電線との水平距離3mの範囲
には建築不可となる。
・66,000Vの高圧線から直下は3.6mの
離隔距離が必要となる。

新庁舎に求めるもの

- ①市民の安心・安全を守る防災拠点となる施設・・・非常用自家発電設備を整備
- ②機能性が高く消防力が向上する庁舎・・・日頃から訓練ができる庁舎
- ③環境に優しく経済性に優れた庁舎・・・LED照明や人感センサー付き照明など省エネルギー設計
- ④近隣の生活環境に配慮する庁舎・・・低騒音機器の採用やサイレン・放送音に対する防音措置

非常用発電設備

停電時の電源確保のため、72時間は外部からの供給なしに業務が継続できるように非常用発電設備を設置します。また、浸水などの被害に対応するため、設置場所は屋上などの高所を検討します。



庁舎外観

- ア 市民が安心できるように目で消防庁舎とわかる建物とします。
- イ 雨漏り対策を十分施し、施工のみならず設計時点よりその対策を検討します。
- ウ 庁舎を使用した各種訓練が実施できるようバルコニーの設置や屋外階段の設置など検討します。
また、必要な箇所を補強し破損しないようにします。



出動準備室

車庫までの出動動線上に、23人の職員が使用可能な防火衣ロッカーを設置し、スペースを有効に活用できるよう、交代番で利用できる回転式ロッカーを導入します。また、出動準備室に出動指令端末を設置し、迅速に出動できるよう検討します。



女性用スペース

仮眠スペース、浴室及び洗濯スペースなど女性職員が当直するために必要なスペースを1カ所に集約して設置します。女性用トイレについては、来庁者を想定し共用スペースに設置します。

女性用スペース(仮眠スペース)



女性用スペース(洗面・浴室)

